



にこにこ しまねっこ



島根小 HP へ

ゆめ なかも かがやき

本を読む楽しさを感じる機会を

12月3日(水)に、第2回学校運営協議会を島根中学校で行いました。4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果について報告し、その後の協議の中で「『読書が好き』と答えた児童生徒の割合が、全国値や県の平均値より少ないこと」が話題となりました。

委員の方からは、「タブレット端末を利用して図表や動画等で視覚的に理解が進む一方で、文章を読み解く活動が減っているのではないか。」「子ども達が本を読むことの楽しさを感じ得する機会を用意する必要があるのではないか。」などの意見が出されました。

小学校では、「先生達のおすすめの本」「小泉八雲の本」などのコーナーを設置したり、図書委員会で図書祭りを企画し、子ども達が読書に関心をもてるような工夫を取り入れたりしていますが、今回は全国や県の平均をやや下回る結果となりました。委員の方からの意見などを参考に、本を読むことに抵抗なく取り組むことのできる子ども達を増やす方法を、教職員で検討したいと考えます。

冬休みには、「家庭読書」を課題の一つとしています。親子で一緒に読んだ本について話題とし、本を読むことの楽しさと一緒に味わっていただきたいと思います。

読書に関しては、現在、次期学習指導要領を検討している中央教育審議会の国語部会の中でも取り上げられています。右(裏面)に掲載した資料は、その会議の中で示されていたもの一部です。

「小中は読書時間が長いほど語彙力が高い」、「一日の読書時間が0分(の児童生徒)、半数以上」などの資料は、とても気になる内容です。

子ども達は、日常の友達との会話や親子での会話、本の読み聞かせ、学校での授業やメディア等を通して言葉に触れる中で、日々語彙を獲得しています。小中学生について、読書時間が長いほど語彙力が高くなっているのは、本を通して日常では使うことの少ない言葉に触れる機会が増



小中は読書時間が長いほど語彙力が高い



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所

「語彙力・読解力調査 2019, 2022」

えていることが一つの要因ではないかと私は考えます。

語彙が豊かであることは、自分の感情や考えを言葉で表現することにもつながり、子ども達がよりよく成長するためには欠かせません。右のグラフは全国的な統計の結果ですが、「1日の読書時間が0分」という児童生徒がこれだけいるということは、自ら語彙力を高める機会を失っている可能性が高いという意味で、とても気になります。

冬休みは一人5冊の本を学校図書館から借りて持ち帰ります。普段よりも自由に使える時間がありますので、計画的に読書時間を確保できるように、保護者の皆様からもお声掛けをお願いします。

1日の読書時間が0分、半数以上



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所

「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015-2024」

充実した2学期を過ごしました。

25日(木)の終業式をもって、79日間の2学期が終わります。年間を通じて最も長い2学期は、各学年ともに体験的な活動が多く、校外に出かけることも度々ありました。それぞれの教育活動を通して、子ども達の生き生きとした表情にたくさん出会い、充実した2学期を過ごしました。3学期も楽しみにしています。



なないろ校外学習(水木しげるロードへ行こう)



1年生 あきの1年どんぐりしようん



4年生 理科出前授業(山陰酸素)



3年生 しじみ漁体験



2年生 おもちゃまつり



5年生 宿泊研修(国立三瓶青少年交流の家)



6年生 修学旅行(広島)